

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 3 月 23 日 (2006.3.23)

【公表番号】特表 2005-516773 (P2005-516773A)

【公表日】平成 17 年 6 月 9 日 (2005.6.9)

【年通号数】公開・登録公報 2005-022

【出願番号】特願 2003-567591 (P2003-567591)

【国際特許分類】

B 0 5 D 7/24 (2006.01)

B 6 5 D 8/00 (2006.01)

B 6 5 D 65/42 (2006.01)

C 0 8 G 18/42 (2006.01)

C 0 9 D 7/12 (2006.01)

C 0 9 D 167/00 (2006.01)

C 0 9 D 175/04 (2006.01)

【F I】

B 0 5 D 7/24 3 0 2 T

B 0 5 D 7/24 3 0 2 V

B 6 5 D 8/00 A

B 6 5 D 65/42 C

C 0 8 G 18/42 Z

C 0 9 D 7/12

C 0 9 D 167/00

C 0 9 D 175/04

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 2 月 2 日 (2006.2.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも 2 つのカルバメートサイトを有する架橋性ポリエステルーポリウレタンポリマー、及び、

架橋剤、を有するコーティング組成物を提供すること、

前記組成物をほぼ平らな基材上にコーティングすること、

前記組成物を硬化させること、及び、

前記基材を容器もしくは容器の一部に成形すること、の工程を含む、包装容器をコーティングするための方法。

【請求項 2】

前記架橋性ポリエステルーポリウレタンポリマーはポリエステル中間体とポリイソシアネート化合物との反応により生成される、請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

前記架橋性ポリエステルーポリウレタンポリマーは数平均分子量が 5,000～35,000 である、請求項 1 記載の方法。

【請求項 4】

前記架橋性ポリエステルーポリウレタンポリマーはガラス転移温度が 50℃～80℃で

ある、請求項 1 記載の方法。

【請求項 5】

前記架橋性ポリエステルーポリウレタンポリマーはヒドロキシ官能性ポリエステルとポリイソシアネート化合物の反応生成物である、請求項 1 記載の方法。

【請求項 6】

前記ヒドロキシ官能性ポリエステルは炭素数が 2 ～ 12 のジオールと炭素数が 4 ～ 40 のジカルボン酸との反応生成物である、請求項 5 記載の方法。

【請求項 7】

前記ヒドロキシ官能性ポリエステルは数平均分子量が 2,000 ～ 10,000 である、請求項 5 記載の方法。

【請求項 8】

前記ジオールはブタンジオール、ブチルエチルプロパンジオール、2-メチル1,3-プロパンジオール、1,3-プロパンジオール、ヘキサジオール、シクロヘキサングリコール、エチレングリコール、ジエチレングリコール、プロピレングリコール、ジプロピレングリコール、ネオペンチルグリコール及びヒドロキシピバリルヒドロキシピバレートからなる群より選ばれる、請求項 6 記載の方法。

【請求項 9】

前記ジカルボン酸はアジピン酸、アゼライン酸、セバシン酸、ナフタレンジカルボン酸、ドデカンジカルボン酸、シクロヘキサンジカルボン酸、ヘキサヒドロフタル酸、フタル酸、テレフタル酸、イソフタル酸、コハク酸、ダイマー脂肪酸、それらのジカルボン酸のエステル及び酸無水物からなる群より選ばれる、請求項 6 記載の方法。